

平成25年度の学校経営計画 各分掌の目標達成のための具体的計画と達成状況

* 下線は今年度新たな取り組み

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできた、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
① 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。 (言語活動の充実を盛り込む)	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程の検証をしながら、より実態に即したものの検討を進める。(習熟度別・少人数の授業科目や時間も) 言語活動の充実を目指した授業の校内実践を継続するなかで、生徒の変容が見られるように働きかけの明確化をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 多面的な検証を踏まえた教育課程ができる。授業形態もより効果的なものになる。 各教科で公開授業とその振り返りができる。 生徒アンケートで「積極的な意見」「発表する力」「論理的に考える力」の項に向上がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程における理系の理科の単位数変更を行うことができた。(理科に+1) 数学と理科で学校設定科目を新たに検討している。 国語の少人数、英語の校内科目と習熟度の設定、数学の数学Ⅲ履修者への対応を各教科に検討いただいている。 授業見学は完全に定着し、他教科の見学も促進できた。公開授業も11月中でほぼ終わっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 数学と理科の学校設定科目を設ける作業に取り組んでいる。来年度6月の科目選択に間に合うように進めていく。 少人数と習熟度の授業については一応の形を決定した。来年度以降も検証し、必要があれば改善していく。 公開授業の振り返りが不十分であった。 生徒アンケートを1, 2年次は2月に行う。3年次の結果では目立った向上が見られなかった。 	B	
	進路課	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導研修講座に参加して指導力を向上させる。 国公立個別試験の問題研究を継続して行う。 研修会/研究会などに参加することで新教育課程に関する資料を収集し、伝達講習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加した教員が教科内で伝達講習の会を開く。 岡山大学入試問題の解答・解説の冊子が作成できる。教科内で研究する。 検討会時、教員研修の時間を作り講習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の教科指導研修講座には9名(国2数1英2理3地歴1)が参加。 教科内で検討し、8月中旬に冊子が完成した。 7月検討会では、業者3社の入試説明会について伝達講習を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏の教科指導研修講座に参加した教員には、A4用紙1枚で報告書を提出してもらった。(教科内回覧の形で伝達) 岡大の冊子は希望する3年生の個人と1,2年生にはHRに3冊ずつ配布した。阪大は未完成。 12月検討会では、「低学年指導研究会(ベネッセ)」の内容を伝達講習した。 	B	
	総務企画課	小中高の授業連携のしくみを推進する。	授業連携を10回以上行う。	出前授業を4回(7/9 川上中学校(英語、家庭)、7/17,11/20 成羽中学校(家庭、数学・英語)、11/22 有漢中学校(数学))授業見学を3回(5/28 川上中学校、6/24,11/25 高梁中学校)実施した。	B	出前授業については、3校から4回にわたって依頼があり、6つの教科が行った。授業見学は、3校に7名の教員が参加し、中学校の実態を知るとともに、指導法などを学ぶ機会となった。	B	
	文化課	図書館利用状況の実態を把握し、不読者数を減らす取り組みをするとともに、継続的に図書館を利用する生徒を増やす。	不読者数が減少し、年間5冊以上本を借りる生徒の割合を55%以上とする。	読書を課題の中に入れて、授業で学習した内容と関連した本や模試で出題された作品の紹介をするなどして、読書の機会を作るように努めた。貸出冊数5冊以上の割合は昨年度の9月までで29.6%、今年度の同時期では18.8%と少なめであった。今後も、継続して本を読む機会を増やす工夫をしていきたい。	B	読書に関するアンケートを実施して、生徒の実態を把握した。各学年の先生方にご協力をいただいて、授業で図書館を利用したり、課題に読書を入れたりして読書の機会を増やすように努めた。5冊以上本を借りた生徒の割合は、昨年度(12月まで)49%、今年度の同時期では36%であった。1年次生の貸出冊数は昨年度と比較すると400冊以上増えており、ライブラリーニュースやブックコレクションで紹介した本を借りる生徒もいた。	B	
	国語科	「話す」「聞く」などの生徒の表現活動を授業の中に取り入れて、伝え合う力を高める。	生徒の表現活動を取り入れた授業を年間10回程度実施する。	単元のまとめや、読解などで、表現活動を取り入れている。自分の考えを正しく伝え、他者の考えを正しく理解できるよう活動の工夫をしていきたい。	B	表現学習を、10回程度実施することができた。話し合いの機会、発表の場を多く持つことで、表現することへの抵抗感を持つ生徒が少なくなり、積極的に自分の考えを表現できるようになってきた。	B	
	地歴公民科	思考力の育成のために各種資(史)料、統計、地図などにしっかりと向き合う場面を設定する。読みとったことを表現させる手段を工夫する。	各種資(史)料、統計、地図などから読みとったことを発表させる場面を各期に3回以上設ける。	資料等から思考させ、文章や発表により表現させる取り組みは各科目それぞれの取り組みの中でできている。興味関心の喚起にもつながっている。	A	資料の読み取りからわかることを導き出す作業を取り入れた授業や問題演習に取り組むことができた。また、それらについて発表し、意見を述べる機会も目標以上に設定することができた。	A	
	数学科	問題を解く過程を重視し、なぜその方法を用いたのか、何が求められたのかなどを記述させることや、説明させることで、表現力の向上を図る。生徒に自力で問題を解き、根拠に基づいて説明できることの重要性を理解させる。それをもとに各々の解法を改善させ、数学的な思考力・判断力の一層の向上を図る。	進研模試の数学の平均点全国偏差値1・2年50以上。3年49以上	7月進研記述模試の数学の平均点全国偏差値1年52.1、2年48.7、3年51.8	B	11月進研記述模試の数学の平均点全国偏差値1年49.2、2年51.3、3年51.1	A	
	理科	実験実習に際しては、事後報告レポートの作成に先立ち、結果整理・考察について班内で議論させる。さらに、クラス全体で発表・質疑応答する機会を設けることで、プレゼンテーション・コミュニケーション能力の育成を図る。	1ヶ月に3回以上、生徒どうしで議論させる授業を実施する。	実験書の記入・提出の際に班員どうしコミュニケーションをとらせた。また、用語などを適切に表現できるように指導をした。全ての班の実験結果を黒板に記入させ、結果について議論させるようにした。	B	3年次生では、後半演習に入ったため実験とはいかなかったが、それまでは全学年において実験時に班員どうしコミュニケーションをとることができた。また、クラス全体で発表というのは少ししかできなかったが、全ての班の実験結果を黒板に記入させ、結果について議論させることができた。また、実験以外の授業の中でも二人組で問題の解答を考えさせ発表させるなど	B	

				言語活動の充実を図ることができた。		
保健体育科	生徒の自主性を促す場を設定し、個々の思考力を向上させる。自己の考えや発想を伝える力と理解力の育成を図り、相互に高め合う集団作りに対する意識を向上させる。	定期的に生徒ミーティングをさせる場面設定を行う。個人フートの記述欄3行以上と内容充実でA評価。	積極的なミーティングにより、コミュニケーション能力の育成と深く楽しむことを意識できている雰囲気があるが、消極的な者への声かけが今後の課題。	B	終盤は、ミーティングの場を設けて、コミュニケーションを図る意義を説明してやることで、自分たちの判断で適宜ミーティングを行えるようになってきた。ノートに関しては書く生徒と書かない生徒の差が出ていることが課題。	B
芸術科	想像力を働かせ自分なりの意見をまとめて発表ができる力を身につけさせる。	単元ごとの意見発表の場を設ける。	すべての単元ではないが、各科生徒各に作品や楽曲についての意見をまとめさせ、発表の場を設けた。	A	想像力を働かせるための材料や資料、手段の提示は行えたが、それを活用して生徒自身が自由な発想で狙いをつけたり発表できる場所までは時間がなくて至らなかった。	B
英語科	「聞く・話す・読む・書く」という4技能の学習到達目標を明示したCan-Doリストを作成する。	本校独自のCan-Doリストを作る。	各年次で年度末までに生徒に身につけさせたい力を考えており、今後は全体を集約してまとめる作業に入る。	B	Can-Doリストを作成することができた。次年度はこれに修正を加え、評価の仕方についても検討しなければならない。	B
家庭科	外部講師などの授業の見学を行い、専門性を深め教科指導力を高める。	年間で3回以上、相互の授業参加、参観を行う。	社会人講師授業を中心に、1～2回程度の授業参観ができています。	B	年間を通じて、全員が3回以上の授業参観ができたが、授業内容の共有やふりかえりを行うまでには至ってない。	B
② 学習習慣の確立 (自主的な学習を目指して)						B
進路課	・年間を通して学習実態調査を行う。生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。 ・各教科の学習習慣の取り組み内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。 ・『進路のてびき』を改訂して発行する。	・家庭学習の時間が3時間を超える生徒の割合が7割を超える。 ・模試の反省会をその都度行う。 ・夏休み前に発行できる。	・6月の実態調査では、普通科は3年が88%、2年が75%、1年が56%であった。家政科は2時間以上が3年が77%、2年が38%、1年が48%であった。 ・1・2年は反省会が行えた。 ・7月中旬に発行した。	B	・11月の実態調査では、普通科は2年が75%、1年が35%であった。家政科は2時間以上が2年が42%、1年が57%であった。 ・12月末には、1年、2年それぞれミニ検討会を行い、年次内で各生徒の学習状況、学業成績、進路志望を中心とした情報共有した。 ・出願時の書式など改善していきたい。	B
国語科	授業の小テストに向けての取り組みの他、授業ごとの予習・復習となる課題や週末課題を課す。	定期的に宿題を課す。小テストの合格率7割以上。課題の提出率8割以上。	小テスト合格率、課題提出率共にほぼ達成基準に到達できているが、不合格・未提出が続く生徒が固定化してきているため、個別指導などを継続していきたい。	B	小テスト合格率、課題提出状況は共に達成基準に到達できた。今後は課題への取り組み方が不十分な生徒への指導、未提出・不合格が継続している生徒への指導を工夫していきたい。	B
地歴公民科	復習の習慣を定着させるために週末課題の出し方を工夫する。小テストを定期的実施する。	・週末課題を隔週で課す。 ・模試の時期に小テストを実施する。	小テストはそれぞれの教員が科目の特性や授業の進捗を考慮し時期や規模を考えて行うようになっている。課題を出さない生徒に対する指導が課題。	B	小テストは定期的、または単元終了毎など科目の特性等を考慮して行うことができています。週末課題も必ずしも隔週毎とはなっていないが、計画的に設定できている。	B
数学科	学習習慣の確立に向けて、火曜日から金曜日は毎日、1・2年次生は数学毎日課題を提出させ、3年次生は予習・復習などの課題の点検を行う。また、数学週末課題を出して週明けに提出させ、週末の学習時間を確保させる。	普通科生徒の9割以上が、数学毎日課題(1・2年次生)や予習・復習などの課題(3年次生)を提出し、数学の家庭学習を毎日1時間以上確保する。	課題の提出については最終的に9割以上提出はしているが、提出期日を守っての提出率は不十分である。学習時間については確保できている。	B	課題の提出については最終的に9割以上提出はしているが、提出期日を守っての提出率は不十分である。提出期限を確実に守らせたい。学習時間については確保できている。	B
理科	定期的な課題(当日課題、週末課題)の実施と期限厳守での提出を促す。課題の提出状況一覧表を、少なくとも週1度は提示し、状況が良くない生徒に関しては、随時面談を行い指導する。	提出率90%以上…A 提出率75%以上…B 提出率75%以下…C	提出状況は概ね良好(基準A)である。一覧表の提示もできている。ただ期日に遅れる者がまだおり、期限厳守という点ではなお努力を要する。提出状況の悪い生徒への指導についてもきちんとできている。	B	提出期限において、前半遅れるものが多かったが、一覧表の提示や期限厳守といった教員サイドの姿勢などにより後半は遅れる生徒の数が減ってきた。また、提出状況も良好(基準A)であり、学習習慣の確立に一定の成果があったといえる。ただ、一部には提出期限が守れない生徒もおり、根気よく指導していくことが必要である。	B
英語科	授業で学習した内容の定着を図るために、家庭で復習としてすべきことを具体的に示し、小テスト等で評価する。	授業アンケートで「復習している」と答える生徒が昨年度より増加する。(平均3以上)	授業アンケートで「授業の復習をしていますか」という質問に、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒が昨年度:51%、今年度:57%でやや増加している。	B	復習すべきことを具体的に示してやることで家庭で何をすればよいのかが明確になり、アンケート結果においても着実な改善が見られる。	B
家庭科	学習進度表や年間学習計画表を提示し、生徒自身に先を見通した自主的な学習計画をたてて取りまとめることで、課題等の提出期限を守らせる。	学習進度表や年間学習計画表が提示でき、提出期限内の提出率90%以上。	3年次においては90%以上期限内に提出できているが、1年次生80%、2年次生70%程度しか期限内に提出できていない。 朝礼連絡や居残り指導、提出物一覧の教室掲示などをすることで、提出率の向上につとめている。	B	学習進度表や年間学習計画の提示等は概ねできたが、提出期限内の提出は全体で、80%だった。 「期限内に提出物が提出できた」 生徒アンケート 1年次生 84% 2年次生 77% 3年次生 72%	B
1年次	教科担任とクラス担任とで、生徒の授業中の様子や課題の提出状況などの情報交換を密にして指導にあたる。	課題の提出状況が良く、期限を守って提出できる。	・夏課題の提出状況を学年で把握し、未提出者の指導を学年全体で行った。	B	・夏及び冬課題の提出状況を学年で把握し、未提出者の指導を学年全体で行った。	B
2年次	教科間の課題の分量を調節し、生徒が自主的に学	課題の提出率100%	・夏課題の提出状況を学年で把握し、未提		・夏及び冬課題の提出状況を学年で把握し、未	

		習できるように指導する。課題の未提出者については学年次団で指導する。		出者の指導を学年全体で行った。提出率は家政科 98.2%、普通科 98.4%になっている。	B	提出者の指導を学年全体で行った。提出率は家政科 97.2%、普通科 98.1%であった。	B
	3年次	年次通信の内容を工夫し、学習習慣を確立するための適切かつ必要な情報を保護者に発信することにより、保護者との積極的な連携を図る。	通知票発送とは別に、保護者向け通信を5回程度発行できた。	保護者向けに進路版通信として、現在3回発行している。	B	年次通信発行はできたが、進路版通信は3号発行にとどまった。双方を通じて、保護者への情報発信はある程度は行えた。	B
③ 生徒が自主性を発揮できる場面の工夫と内容の充実	生徒課	・委員会活動の充実を図る。執行部から各委員会へ提案し、企画を実現させる。	・ヒアリング回数3回以上A ・企画実現3以上A	・現在のところ企画を実現することができていない。	C	・生徒の中に現状に大きな不満がなく、新たな企画を積極的に推進する雰囲気になっていないので、今年度については、実現できなかった。来年度は目標設定から考え直したい。	C
	総務企画課	生徒が地域連携について研究し、企画する場面を提供する。	生徒が企画して実践できた。	1年次生を対象に、総合的な学習の時間や夏休みを活用し「高粱を知る」というテーマのもと、グループごとに研究テーマを掲げ、地域に出向き、地域の方々へのインタビュー等を通して研究を進めた。研究内容については、模造紙にまとめ文化祭で発表した。 栄町活性化事業については、生徒がより主体的に企画運営に携われるよう、新たに生徒実行委員会を立ち上げ、3回実行委員会を開いた。11/24(日)栄町商店街活性化プロジェクト及び高粱地紅茶祭実行委員会によるイベントに参加(教員12名、生徒108名:生徒会執行部、家政科(手話)、家庭クラブ、コーラス部、吹奏楽部、書道部、美術部、茶道部、有志(備中神楽))	B	1年次生が総合的な学習の時間や夏休みを活用して取り組んだ「高粱を知る」研究は、郷土をより深く理解するきっかけとなった。栄町の活性化事業については、地紅茶祭り実行委員会との共催という形でイベント「地紅茶祭り」を企画運営し、高粱城南高校の生徒と一緒に看板作りや当日の進行、各種体験・販売・パフォーマンス等で盛り上げた。6回の実行委員会の内、4回は生徒も参加し、栄町商店街や市の担当者等と協議を行った。参加者から高校生さわやかさとパワーをほめていただき有意義なイベントとなった。来年度はこの事業の最後の年となる。市の活性化のためにも高校生ができることは何か生徒が主体となって考え、企画実践させたい。	A
	厚生環境課	・美化に対する意識の高揚と自主的な活動を促すため、日常の清掃活動や古紙回収、整理整頓の呼びかけ活動や学校周辺の清掃活動を行う。 ・地震を想定した避難訓練を実施し、生徒が自主的に危機回避できるような心構えを養う。	・クラスごとにプリント類の大きさににより分別することができた。 ・年3回以上の清掃活動ができた。 ・美化委員による点検結果を報告し、清掃の徹底が図れた。 ・地震を想定した避難訓練を計画し、年1回実施する。	・ゴミの分別についての意識は定着してきた。プリントの大きさによる分別までにはいたっていないが、職員室前の分別では、おおよそできている。しかし、日常の清掃点検が徹底できていない。 ・校外への清掃活動は後期に予定している。前期には残念ながらできなかった。 ・後期(10/28)に緊急地震速報を使用しての避難訓練を実施。	B	・クラスごとのゴミ分別はできなかったが、大きさ別の分類の足がかりと分別意識の定着はできた。 ・校外の清掃活動は、計画の遅れから1回に終わってしまった。年度当初の計画立案が必要であった。 ・美化委員からの情報をアナウンスし、周知させることができなかった。 ・防災マニュアルを刷新することができた。また、緊急地震速報を取り入れた防災避難訓練を行うことができた。	B
	家政科	家庭クラブを中心に地域との交流を充実させ、活動の中で生徒主体の場面を増やす。	「地域との交流において生徒主体の活動ができた」 生徒アンケート80%以上	従来から参加している「わくわく子どもフェスタ」などには、今年度も生徒主体に参加できた。今年度新たに、「子どもと親の学習フェスタ」に参加し、また11月にも栄町活性化事業のイベントに参加する予定である。	A	「わくわく子どもフェスタ」に加え、「子どもと親の学習フェスタ」や、11月の栄町活性化事業のイベント「地紅茶まつり」に初参加など活発に参加できた。 「地域との交流において生徒主体の活動ができた」生徒アンケート 96%	A
	寄宿舎	・各寮内において、寮長、副寮長を中心とした「自主」「自律」の運営を活発にできるように毎週木曜日に各寮において反省会を行う。 ・寮長、副寮長と舎監長との情報交換を月1回行えるような体制を確立する。	・各寮において反省会を9割以上行うことができる。 ・寮長、副寮長と舎監長との情報交換を9割以上行うことができる。	・反省会においては、各寮長を中心に毎週きちんと行うことができています。 ・寮長と舎監長との情報交換は9割以上はできているが、寮の情報については寮長を通して行われているので副寮長との情報交換は今後の課題となる。	B	・各寮での反省会については、それぞれで定着し、毎週木曜日に行うことができた。それにより自分たちで整理整頓など「自主」「自律」的に取り組んでいる。ただ部屋によってはまだまだのところもあり今後の課題である。情報交換については寮長とは行うことができたが、副寮長とはなかなかできなかった。	B
④ 情報を共有し課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。	教務課	・特別入学者選抜の実施に向け、内容等の検討を組織的に行うとともに、総務企画課とも連携し積極的に情報発信をする。 ・学籍システムの入力マニュアル(指導要録作成のための)をさらに使いやすいものにする。 ・職員室(放送室を含む)の環境整備を厚生環境課と連携・協力して行い、情報共有しやすくする。	・円滑な実施ができ、求める生徒の選抜が十分にできる。 ・改善されたマニュアルができる。 ・職員室が情報共有しやすい環境となる。	・実施に向けて計画的に準備を進めている。 ・後期に着手する。 ・職員室内の整備に努めたい。放送室の整理は生徒課とも協力し、着実に進んでいる。	B	・実施前であるが、当初の予定通りに準備は進められた。実施して出てくる課題をきちんと把握し、次年度に活かしたい。評価は実施後。 ・マニュアルは現時点でできる改善を行っている。 ・放送室奥の部屋が活用できるようになった。職員室内の整備(ホワイトボードの活用、ロッカー整理)を事務や厚生環境課と連携して進めたい。	A
	生徒課	・学年対応、他の課との情報共有・交換の徹底・効率化を図る。	・教員へのアンケート調査80%以上A ・申合せ事項の整理と見直しを行う。	・申合せ事項については現在進行中である。	B	・部活動についての申合せ事項は検討し見直した。 ・各種様式については、残ったものがあるので、今後、必要に応じ検討し見直したい。	B
	進路課	・各年次、進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 ・定例の進路課会議を行い課題の発見と対策を検	・進路通信を各年次10回発行できる。 ・週1回の会議ができ、進路課としての共通認識のもと、年次主導の進路指導ができ	・2年次はよいペースで発行している。 1・3年次はやや滞っている。 ・ここまで15回課会を行った。各年次で今なにをしているかの情報交換はできている。		・2年次は14号、1年次は8号、進路通信は16号まで発行。 ・ここまで25回課会を行った。学習合宿、特別授業、休業中の補習などについて議論でき	

	<p>話し、共通理解をはかる。</p> <p>・3年間を見通した進路指導を行う。</p>	<p>る。</p> <p>・他年次の集会などに積極的に参加する。</p>	<p>・センター試験説明会には、1・2年次進路課教員が参加した。</p>	B	<p>た。各年次間での情報交換もできた。</p> <p>・ミニ検討会には年次を越えての参加があった。「積極的」とまでは言えない。</p>	B
総務企画課	<p>定例会議を開催し、行事の情報交換を行って、ホームページの充実等につなげる。</p>	<p>ブログの更新回数100回以上。</p>	<p>定例会議を5回実施した。ホームページはできるだけ新しい情報を発信できるよう努めた。ブログ更新回数9/20現在で102回。</p>	A	<p>定例会議を8回実施した。ホームページについては、部活動の更新が思うように進まなかったが、ブログ更新に努め、タイムリーに学校の様子が伝わるよう努めた。ブログ更新回数1/17現在で160回。</p>	A
1年次団	<p>3年間で、生徒を鍛え育てるために必要な情報を共有する。</p>	<p>朝の会、年次会議などで生徒の情報が共有できる。</p>	<p>・科目選択調査(中間)結果などを利用して、生徒情報の共有をはかる。</p>	B	<p>朝の会で時期に合わせて、生徒についての情報交換を行った。</p>	B
2年次団	<p>3年間で生徒を鍛え育てるために、生徒の状況を細かく把握し、担任会等を通して連絡を密にする。</p>	<p>生徒面談で将来の志望を叶える適切なアドバイスができる。</p>	<p>・面接週間4/10～、6/17～、9/13～を中心に生徒面談を行った。</p>	B	<p>・年5回の面談週間、HR・総合学習の時間等を利用して生徒の進路意識を育んだ。学年ミニ検討会を行い学年での情報共有をし、来年度への橋渡しになった。</p>	B
3年次団	<p>進路課との連携を図り、外部から得た情報を年次団教員が共有できる体制作りを行うことにより、生徒の進路実現に組織的に取り組む。</p>	<p>進路関係の来客や入試説明会で得た情報を、毎回の朝礼や担任会を通じて共有することができた。</p>	<p>進路関係、その他生徒指導面でも情報を共有し、組織的に取り組んでいる。</p>	A	<p>進路関係や生徒指導面も含め、情報の共有ができ、組織的な取組ができた。</p>	A
理科	<p>・年間を通して週一回の教科会議を行い、生徒の自主的な学習習慣の確立・指導方法の研究など情報交換・協働体制を図る。</p>	<p>・教科会議を年間20回以上できた。</p> <p>・授業の進度や指導方法など教科内の共通認識のもと、指導できた。</p>	<p>現在まで12回の教科会議を行った。その中で昨年以上に情報の共有ができており、授業の進度・指導方法など多くの話ができています。</p>	B	<p>1月末までに12回の教科会議を開くことができた。授業の進度や指導方法など教科として情報の共有をすることができ、それぞれのスキルアップにつながったと考える。薬品管理などについても協働体制を図ることができた。</p>	B
家政科	<p>・家政科のPRを積極的に行う。</p> <p>・ホームページやブログ等の広報を積極的に行い、高梁高校のブログにおいて年間30回以上タイムリーにアップする。</p>	<p>年間30回以上タイムリーにアップできた。</p>	<p>・高梁高校のブログにおいて家政科は24回アップした。</p> <p>・校外に、家庭クラブ新聞掲示。</p> <p>・オープンスクールや文化祭で家政科の授業の様子を展示。</p>	B	<p>校外に家庭クラブ新聞掲示や家庭科の様子をオープンスクールなど展示できた。</p> <p>年間40回以上タイムリーに高梁高校のブログにアップできた。</p>	A
事務室	<p>・事務室内朝礼の充実を図るとともに職員朝礼で連絡・情報提供を行う。</p> <p>・サーバー内のデータを整理し、担当者不在でも迅速な対応ができるようにする。</p>	<p>・連絡漏れがない。</p> <p>・各種様式等を整理できた。</p>	<p>・職員朝礼での連絡は適宜行っているが、事務室内朝礼をもっと活性化したい。</p> <p>・サーバー内データは各分掌ごとの整理ができたところなので、今後担当者が各自整理する必要がある。</p>	B	<p>・事務室内朝礼での情報交換や事務室予定表に入力することにより情報共有しやすくなった。</p> <p>・各自が整理することを心がけるようになり、各種様式等のデータについては整理ができた。</p>	A